



か。いやー、感動しましたよ。モモンガみたいな暮らしをしてみたいなって思いましたよ」占冠を中心に野生動物や自然を撮り続けている自然写真家の門間敬行さんが、モモンガと巣穴で遭遇した時の話です。最初の頃は、道内各地へ行って動物を撮っていましたけれど、今は占冠の森を中心に身近にみられる動物や自然を被写体に、じっくりと時間をかけて向き合いたいそうです。占冠村に住んでみて、この村には海のもの以外、何でも揃っていると気が付き「これってすごいことだよ」と門間さん。

身近な自然に触れる

富良野市生涯学習センターの「ふらの森の教室」は、東大演習林、太陽の里ふれあいの森など、身近な自然の体験学習ができる場所です。2時間ほどで、自然の観察・体験学習ができます。まずは、参加時の服装です。長袖に長ズボン、運動靴でもいいけれど、湿地もあるので長靴がベストです。「野草や山菜など触れてもいいもの、採っていいもの、だめなもの、食べていいもの、だめなもの、それらを見分け、実際に触れて、食べてみるのが体験学習のおもしろいところだよ」そう話してくれたのは、富良野市の小笠原繁男さんです。東京大学演習林に40年間携わり、現在ボランティアで体験学習の案内指導をしています。毎年2回、春と秋に植樹祭が行われ約2万本が植樹されるそうです。身近な森を知り、この環境を大切に

していきたいものです。

自然を感じる

空知川は、南富良野町南東部の狩振岳（かりふりだけ）を水源として、北西に流れ石狩川に合流します。その流域は山岳を縫うように渓谷を形作っています。険しく美しい景観ではありますが、眺めるだけではなく、カヌーやラフティングなど、楽しみながら自然を満喫できます。そんな魅力を伝えていく仕事をしている（有）リトルトリー代表の大野聡さんに話を聞きました。険しい渓谷の急流下りもありますが、大野さんの一押しは、3歳の小さな子どもから年配の方までが参加できる緩やかな空知川をゆったりと自然観察しながらの川下りです。新緑の初夏、紅葉の秋、四季折々の自然の景色を見ながら川面に流れる風を感じ、運が良ければエゾ鹿など水辺に来る動物が観られるかもしれません。肌で感じる実体験にガイドの饒舌な解説は要らない、参加した人たちそれぞれが、それぞれの感動を得てくれたら嬉しいと言います。



3「森のトンネル」空知川の川下り



4アカハラ 美瑛にて

自然を観る・聴く

自然公園、森林公園などこの地域には、小さな森が一杯です。日本野鳥の会の会員で関西から8年前に中富良野町に移住した大吉五夫さん・信子さん夫妻に話を聞きました。野鳥の声を追って中富良野に移ってきたわけではないけれど、自宅からの風景や周りの人たちとの関わりなどいろいろな面で、移住は大正解だったと言います。富良野市の鳥沼公園で、お二人に話を聞いたのですが、会話中も何種類か鳥の音が聞こえます。「あつ、キビタキ。あれは、オスだね」さすが野鳥の会です。自宅の付近でも、いろいろな鳥を観、その声を聴くことができるそうです。冬の活動を聞きました。雪の中の野鳥の観察は、木の葉が落ちているので、その姿を発見しやすく、森の中で虫に悩まされることもないという利点があるそうです。関西の底冷えする寒さに比べれば、北海道の家屋は寒さに対する備えができており、慣れてしまえば冬もそれなりに快適だそうです。

冬の自然も魅力的

バックカントリーという言葉をはじめて知りました。自然の山に、自らの足で登り、スノーボードやスキーで滑り降りるスポーツです。そんなウインタースポーツを撮影するカメラマン佐藤圭さんは、十勝岳の魅力に魅かれ上富良野に居を構えています。撮影のためアラスカなど海外の山にも出掛けますが、最近、スイスやフランスの撮影スタッフが、十勝岳、旭岳、富良野岳などの富良野エリアを訪れるという傾向がみられるそうです。「とにかく雪質が良くて人が少ないところかな」とその理由を分析します。上富良野山岳会では救助隊にも所属し、夏は時間が合えば、登山道を直したり、草を刈る作業を手伝ったりと、山を守っていくことにも力をそそぎます。「十勝岳連峰は大小の山が連なっているから、初心者からベテランまで山を選んで楽しめるんだよ。四季を通しての山の景観がいい。すべていいんだよ」佐藤さんの言葉です。

広い大地と豊かな自然の中で、のびのびと心豊かに暮らしたいものです。この地に魅せられ、自然相手の活動をしている人たちの声を通して、この地の魅力が少しでも伝わればと思います。（恭）

【特集中の写真提供】

- 1 国立大雪青少年交流の家
- 2 門間敬行さん
- 3 大野聡さん
- 4 大吉五夫さん



移住者に聴きたい

美瑛町 武田ミカさん

▲武田ミカさん
東京都大田区出身
移住して7年目

移住候補地は海外も…

美瑛町に移住して7年目。東京都大田区出身の武田ミカさんは、17歳でアメリカに短期留学した経験から「広大な所に住みたい」と考えるようになりました。旅した国は30数カ国、風景が気に入ったオランダやスイスは移住候補地でした。しかし、大学時代にツーリングで美瑛の丘を駆け巡り風景に感動。美瑛のキャンプ場で出会った多くの仲間たちが移住していたことで美瑛町を選びました。人里離れた自然環境は理想通りの生活でしたが、移住2年目に病気にかかり手術をきっかけに自分の健康を考えるようになりました。そこでヨガを始め、効果を実感した武田

さんは、インストラクターの勉強もして指導者になりました。旭川リハビリテーション病院では、先生と協力しながら「リハビリヨガ」にも携わっています。子育てをしながら、ヨガの普及に励んでいる武田さんは「自分で道を切り開くエネルギーがあれば移住できると思います」と微笑まれました。（克）

ふらびズムHP上でインタビュー動画配信中

武田ミカさんとヨガ仲間のホームページ
<http://www2.plala.or.jp/bud/index.htm>



満開のそば畑に立つケンとメリーの木



中富良野駅 → 彩香(さいか)の里 → 森林公園 → 中富良野駅

●全長約3.7km/約1時間

ガンビとは白樺の樹皮のこと

中富良野町には数多くの花の見所スポットがあります。今回は駅から徒歩で行ける2カ所をご紹介します。まずは彩香(さいか)の里。駅に着いたら花人橋(はなひとばし)を渡り、駅の東側から西へと移動します。彩香の里には歩行者専用の近道がありますが、坂がとても急なのでご注意ください!花畑の総面積は約6haで札幌ドーム約1個分の広さです。早咲きの濃紫(のうし)3号や遅咲きのおかむらさきなど7種類のラベンダーが楽しめ、摘み取り体験も出来ます。彩香の里から約15分歩くと森林公園です。園内には北海道健康づくり財団認定の「ガンビの道」と「エノリスの道」があります。どちらも1周約25分でカラ

マツやニレ、インツツジがみられます。車の走行も可能なので歩く時は注意が必要です。公園内ではキビタキやオオルリ、オジロワシなど約50種の野鳥の観察ができます。花畑だけではなく沿道を含めて町全体が花一杯、この季節の中富良野町をのんびり散歩してみませんか?(な)



彩香の里への近道からみた町並み